

巻頭言「私たちが望むインターネットに向けて」

2023年は、インターネットとデジタル技術に関連する重要な国際会議が立て続けに日本で開催され、日本から世界に向けてメッセージを発信する大切な1年となった。

まず3月には、第116回IETF (Internet Engineering Task Force) 会合が横浜で開催された。6月にはG7サミットが広島で行われ、日本は議長国として「広島AIプロセス」を打ち出した。さらに9月にはAPNIC Meetingが、そして10月にはIGF (Internet Governance Forum) が、それぞれ京都で開催されている。

特に注目されたのが、日本では初開催となったIGFであり、メインテーマとして「私たちの望むインターネット—あらゆる人を後押しするためのインターネット— (The Internet We Want - Empowering All People)」が掲げられた。コロナ禍明けの最初の会合でもあり、これまでで最大の参加者数 (現地参加者6279人、オンライン参加者3000人以上) となった。

インターネットが構築するグローバルなデジタル空間は、世界中の多様な個人、組織、コミュニティが自由に利用できる環境でなければならない。一方で、インターネットが世界に浸透するにつれて、不適切な目的に悪用される事例が増加していることも事実である。そのために日本が一貫して世界に向かって提唱しているのがDFFT (Data Free Flow with Trust、信頼性のある自由なデータ流通) である。これは、日本がとなえる「人間中心の信頼できるAI」を構築するためでもあり、G7でも岸田文雄首相がDFFTの具体化を進めていくと表明している。

そしてIGFでは、2023年のキーワードの一つである「生成AI」に関する積極的な議論が行われ、「AI開発者向けの国際的な指針及び行動規範」を打ち出すG7で提示された「広島AIプロセス」の加速が表明された。生成AIは、これまでも大きな問題と認識されていた偽情報の爆発的増加とその認識・認証が急激に難しくなることが、広く認識されつつある。一方で、生成AIの有効性と社会的・産業的なインパクトが議論され、これから人類が取り組むべき多くのアジェンダが提示された。

人類が持続的な活動を可能とし、成長を継続するためには、インターネットおよびデジタル技術が重要な役割を持っている。私たちには、そのことを認識し、新しい時代のデジタルインフラを、分断 (Decoupling) することなく協力して構築するよう、取り組んでいく責任がある。

2024年1月

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)

理事長 江崎 浩



1996, 1997, 1998, 1999, 2000...

[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dおよび株式会社インプレスが1996年～2024年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<https://IWParcives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&Dおよび株式会社インプレスと著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

インプレス・サステナブルラボ

✉ iwp-info@impress.co.jp